

教会ってどんなところ

神さまは あなたが お出でになるのを
待っていていらっしゃいます



誰でも教会に来てもよいのですか

もちろん ご遠慮なく いらしてください。

神様は、すべての人を愛していてくださいます。

すべての人々が、喜びと安心ともって 生きて行けるようになることが、神さまの願いであります。

あなたも わたしも、このように神さまに願いをかけられている者であります。

教会には、年配の人も若い人もいらしています。また、さまざまな職業に携わっておられる方々が来ていらつしやいます。

教会においては、どのような人も、みんな神さまに愛されている子どもとして、分けへだてなく同じものです。

教会にあなたがお出でになることを、神さまは待っています。

また 教会に集っているみんなも あなたを待っています。

教会ではなにをするのでしようか

教会でおこなう、いちばん大切なことは「礼拝」ということです。

「礼拝」とは、神さまに感謝をささげることです。

わたしたちがもっているものは、命をはじめ、そのすべてのもの、例えば働くことも、遊ぶことも、みんな 神さまによつていただいたものですから、そのことについて素直に ありがとうございますと感謝することが、礼拝ということですよ。

教会では、聖書を学びます。

聖書は 私たちがどのように生きることが、神さまにも人々にも喜ばれ、自分も喜びと安心と 希望とをもつて生活することができるかという、いちばん大切なことが示されてある 聖い教えの書物です。

その教えを、牧師さんとおし、共に集まっている方々との楽しい交わりによつて学びます。

教会を訪ねたとき、どうすればよい のでしょうか

教会では、ふつう日曜日の朝に礼拝がおこなわれています。

その時間に、安心して教会に入って行かれてよいのです。

受付の方がおられたなら、「はじめてです」というだけで、親切に喜んであなたを迎えてくださるでしょう。

また、礼拝が始まっているときは、静かに礼拝堂の椅子にお座りになり、最初はまわりの人と同じようにし、分からないときはそのまましておれば、やがて自然にわかるようになってきます。

礼拝が終わって、誰か声をかけてくれる人がいれば、「わたしは初めてです」と言えば、親切にいろいろ教えてくれるでしょう。

牧師に会うことが出来れば、自己紹介をすることもよいと思います。

礼拝はどんなことをするのですか

プロテスタントの教会では、聖書の言葉をとおして、神さまと人間の関係や、人としての正しい生き方などを牧師先生が話される 講話または説教があります。

そしてその前後に、神さまのお恵みを賛美する賛美歌を歌います。また、感謝や願いの祈りがあります。

それに、献金があります。これは 自分の最も大切なお金をささげることによって、神さまが自分を生かしてくださっているご愛に、感謝の応えをする具体的な行いです。勿論、金額は自分が決めてささげますし、都合が悪い時はささげなくてよいのです。

その他に聖餐式などもありますが、礼拝に参加している間に、すこしづつ理解できるようになってきます。

礼拝式で献金を捧げるのはなぜですか

私たちは自分の力で毎日生きているように思っていますが、よく考えてみますと生かされている者です。この時代に、この国に、この性をもつて、この親のもとに、この容姿で、生きている。どれ一つとして自分で選んだものではなく、気がついたら、この私、だったのです。そしてやがて、この世での勤めを終えると、自分の意思とは関係なく、時が来てこの世から去って行く者です。私たちは毎日自分で生きているように、その実、生かされているのが自分です。その生かして下さっている命の主を「神さま」と聖書はおよびします。

このように、生かして下さっている神さまのご愛に感謝するのが礼拝であり、献金は感謝のしるしです。お捧げする額は各自が決めるもので、会費のように定められたものではありません。

私たちの教会では、礼拝献金は決められた袋に入れて、お捧げしています。捧げられた献金の額は誰にも分からず、神さまとその人との間のことだからです。

献金の最後に礼拝当番の方が会衆を代表して感謝のお祈りをなさいますが、その時、ご一緒に心からアーメンと唱和いたしましょう。

聖書は どういう本ですか

聖書とは、神さまが行われた救いのわざと教えとを伝える本です。

聖書は「旧約聖書」と「新約聖書」に分かれています。

旧約聖書は、イエスさまが生まれる前に書かれたもので、三十九の文書の集まりです。また、新約聖書は、イエスさまのご生涯とその教えとを伝えたもので、二十七の文書から出来ています。

聖書はキリスト教会の「正典」です。正典とは正式の教えの本のことです。ですから 聖書を正しく読むことは 正しい信仰をもつうえでも大切なことです。

聖書の書かれた時代とその文化圏が違いますので、その点においては、いくらかの準備が必要です。しかし、神さまの教えは、時代や文化を超えて、人間がどのように生きるかが まことの幸いになるのかと言うことを、聖書は伝え続けています。

はじめて読まれる方は イエスさまの教えを伝える四つの福音書がよいでしょう。

新約聖書

マタイによる福音書

マルコによる福音書

ルカによる福音書

ヨハネによる福音書

使徒言行録(しとげんこうろく)

ローマの信徒への手紙

コリントの信徒への手紙一

コリントの信徒への手紙二

ガラテアの信徒への手紙

エフェソの信徒への手紙

フィリピの信徒への手紙

コロサイの信徒への手紙

テサロニケの信徒への手紙一

テサロニケの信徒への手紙二

テモテへの手紙一

テモテへの手紙二

テトスへの手紙

フィレモンへの手紙

ヘブライ人への手紙

ヤコブの手紙

ペトロの手紙一

ペトロの手紙二

ヨハネの手紙一

ヨハネの手紙二

ヨハネの手紙三

ユダの手紙

ヨハネの黙示録

旧約聖書

一歴史書一

創世記

出エジプト記

レビ記

民数記

申命記(しんめいぎ)

ヨシュア記

士師記

ルツ記

サムエル記上

サムエル記下

列王記上

列王記下

歴代誌上

歴代誌下

エズラ記

ネヘミヤ記

エステル記

一預言書一

イザヤ書

エレミヤ書

哀歌(あいか)

エゼキエル書

ダニエル書

ホセア書

ヨエル書

アモス書

オベデヤ書

ヨナ書

ミカ書

ナホム書

ハバクク書

ゼファニア書

ハガイ書

ゼカリヤ書

マラキ書

一教訓書一

ヨブ記

詩篇

箴言(しんげん)

コヘレトの言葉

雅歌(がが)

聖餐式とはなんですか

「聖餐式」は、パンと葡萄酒を分かち合い共にいただく典礼です。

イエスさまのご生涯は、神さまの愛を私達に教え、示すことでした。

イエスさまの教えは、言葉だけではなく、人々を愛する行いをおし、身をもって實際的に、神さまの愛がどれほどのことであるかということをおし、身をもって示されたのです。

さまざまなことでも悲しみ苦しんでいる人に手をさしのべて、神さまの愛を信じ仰ぐなら、必ず幸いな人生をおくることができ、安心して死に、神さまの命にあずかることが出来ることをお示しくできました。

最後にイエスさまは、十字架におかかりになり、お亡くなりになりましたが、三日目に復活され、神さまのもとにお帰りになりました。

「聖餐式」のパンと葡萄酒とは、イエスさまが身をもって示された神の愛と力と命とのしるしであります。

ですから、それを見て、触れて、食することによって、自分が今、神さまの命に与かっていることを、確認し、喜び、感謝する礼典であります。

求め信じる者は、どなたでも聖餐式に、神さまはお招きになり、与ることが出来ます。

神さまはどういう方ですか

神さまのことを知るためには、聖書の教えに目を向け、耳を傾けるとよいでしょう。なぜなら、聖書は神さまのことを語っているからです。

聖書が私たちに教える神さまは、金や銀や石や木で刻んだ物ではありません。

また、自然を指して神さまともいいません。

聖書が教える神さまは、天地宇宙のすべてを、愛によってお創造つくりになった、恵みと力と智慧そのもののお方です。

そのような神さまは、見ることも、触れることもできません。しかし、それでいて私たちの、内において、すべてを生かしておいになる働きそのもの、命そのものでもあります。神さまは、正に、恵むもの、つまり、すべての芽を育むものです。

ですから、神さまは愛のお方として、すべてのものをつつみ育んでいらつしやる、真実そのものだと申せましょう。

イエスさまとはどういう方ですか

イエスさまは 私たちに神さまの道を教えて下さった方です。

イエスさまは今から二千年程前に ユダヤのベツレヘムでお生まれになり、三十才ぐらいのとき 多くの人々に神さまのお恵みの働きが どのような人 どのようなもののもとにも在ることを説き、不思議なわざをなされました。が、三年の後 西暦三十年頃 十字架にかけられました。

ところが 三日目に復活され 多くの弟子たちにお姿を現されて 全世界の人々に教えを伝えるようにと お命じになったあと、神のもとへお戻りになりました。

イエスさまのことをキリストとおよびしますが キリストとは 救い主 ということです。ですから イエス・キリストとは イエスさまは私たちの救い主です。という事です。

イエスさまは 神さまの愛と真実とを身をもって示され、それを信じて生きる者は、どの人も幸いになれると約束してくださいました。

苦しみと悩み多き人生を生きる人々に、天の父なる神さまが、キリストさまを私
たちのもとへ遣わして、命と平安への道を敷いてくださいました。

ですから、キリストであられるイエスさまの教えとわざとは、福いなる音づれ、
つまり「福音」といわれるのです。

ですから、イエスさまはキリスト(救い主)だと、聖書は教えてくれます。教会は、
イエス・キリストさまによる福音に、多くの方々が与かってくださることを願って
います。

家でとなえるやさしい祈りを教えて ください

目に見えないおおいなる方である神を 自分の心に思い 自分の内にある苦しみや悲しみ 喜びや希望、心配や不安などを だれはばかることなく祈ることができるとは、なんと有り難いことでしょうか。

祈りは、あなたとおおいなる方である神さまとの交わりです。ですから、教会は特に、祈りの形や言葉を定めません。

しかし、ととのえられた祈りの言葉をもって祈ることは 自分を神さまの前に高めるだけでなく、自分の生活を正しく導く力と智慧となり、人々による感化をあたえることにもなります。

聖書には 「主の祈り」という イエスさまが教えてくださった祈りがあり、教会はこれを大切にしています。

主の祈り（イエスキスが教えて下さった祈り）

天にまします われらの父よ

ねがわくは み名をあげさせたまえ

み国を来たらせたまえ

みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ

われらの日用の糧を 今日も与えたまえ

われらに罪をおかす者を われらがゆるすごとく

われらの罪をも ゆるしたまえ

われらをこころみにあわせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり。

アーメン

お祈りはどこでするのでしょうか

神さまは どこにもおられます。ですから お祈りをする決まった場所というところを考えなくてもよいのです。

もちろん お祈りに相応しい雰囲気がある場所で祈ることはよいことです。教会とか 自然のなかとか、自分が落ち着ける部屋とか。

でも 歩きながらでも、また電車の中でも、心の内でひとり念じることもできます。神さまは いつも どこでも あなたの祈りを聞いてくださいます。

一日のはじめ また 一日の終わりのとき、例えば寝る前に 今日を感謝し 目を覚えてお祈りすることは かならず あなたの心と思いを安らかにしてくれるでしょう。

いつも 自分が神さまと一緒になのだというをよく知っているなら、あなたは どこでも祈り 平安と力とを与えられるでしょう。

お祈りのあとでアーメンと皆が唱和 しますがなぜですか

アーメンとはヘブライ語で「真実」とか「確かに」という意味の言葉です。

お祈りを共にするとき、最後にアーメンと全員が唱和しますが、それは、その祈りに、「私も心から同じです」という祈りへの参加の言葉であります。

また、「その祈りは、必ず神さまはお受けになり、必ず神は実現される」という信仰の確信の言葉でもあるのです。

互いの祈りにおいて、アーメンと声を出して唱和することによって、神と人との交わりが、いつそうに深められ、信仰の確信へ互いに高められていきます。

思いが声となり、その声が自分や人のなかにふたたび入って、その言葉のとおり、その人を造りかえて行く力となるのです。

遠慮せずに、しっかりと声を出して唱和しましょう。

お祈りはどのようにするのですか

お祈りするといいますが、すぐに、何かをお願いすることだと思ってしまうせんか。困ったときに神さまに祈り願うこともよいことです。

しかし、お祈りにおいて、いちばん大切なことは、神さまに感謝することです。願うばかりの祈りは、自分の欲の心から出て来ることで、そのような祈りばかりしてしまいます。いつのまにか、わたしたちの心が自分中心の欲の思いでみだされ、ついには、祈ったのに、願いが叶えられないといったような、不満や愚痴などの文句を言う、わがままな者になってしまいます。

ですから、お祈りの基本は、生かされ、すべてを与えられていることを、神さまありがとうございます。と感謝するところもちです。

感謝のお祈りをしていきますと、神さまをほめたたえる祈り心が出てきます。それは神のお恵みを賛美する祈りです。

自分の身のまわりにある、花や鳥や自然のすべてに、今まで気付かなかった神さまの偉大さが見えてきて、神さまありがとうございます、という神さまを賛美する祈り心か生まれてくるのです。

そのように祈っていますと、必ず、わたしはこれほどの神さまのお恵みに対し、なにひとつ感謝せずに生きて来た、それどころか不平不満ばかり言って生きてきた、と思うようになります。

そして、神さまごめんなさいと、神さまにゆるしを願うお祈りをするようになります。

そして最後に 謙遜な気持ちにさせられて 神さますべてよろしくお願い致しますと自分の生活の中で起こる悲しいこと 不安なこと そうあってほしいと思うことを 神さまにお願いするようになります。

神さまは 私達の幸せを願っておられるので 必ず お応えくださいます。

お祈りの最後に「イエス・キリストの御名によって」と言うのはなぜですか

お祈りは、神さまへの語らいであり呼びかけです。その内容は、感謝、懺悔、願いです。

神さまへのお祈りでは、いつでも、どこにいても、また、声を出しても、心の内においてもできます。神さまは、心から祈る人の祈りを聞いてくださいます。

ではなぜ、「イエス・キリストの御名によって」祈るのかと言いますと、イエスさまが地上を去り天の神さまのもとにお帰りなるとき、弟子たちに「わたしの名によつてお祈りすることは必ず聞いてあげよう」と、約束をして下さいました。

ですから、この有り難いお約束の言葉にしたがって、確信をもってキリスト者はお祈りをするのです。

「救い主、イエス・キリストの御名によつて」というのを「主の御名によつて」と唱える場合があります。

洗礼を受けるとは どういうことですか

洗礼とはバプテスマとも言われます。ギリシヤ語バプテスマの動詞形バプティゾーは水に浸すという意味で、水に浸す儀式、神さまの愛の中に自分を浸す儀式が洗礼であります。

教会では キリストさまの命を自分にいただいて生きるしとして 行うもので、ただ、教会の会員の資格を得るための儀式が洗礼ではありません。

洗礼をうけた者だけが 神さまに救われ 受けない者は救われないという 救いの保証が洗礼ではありません。 救うのは神さまの愛であって、私たちは その愛を信じていただく信仰だけで十分なのですが、自分の信仰の態度を、自分自身に対して自覚的に表明し、神さまの愛に永遠に生かされる者として信仰の告白の具体化が洗礼だといえます。

洗礼の形式は プロテスタントやカトリックで少し異なり、プロテスタントのうちでも少し違うことがあります。それは本質的なことではありません。

プロテスタントとカトリックは違 いますか

プロテスタントとカトリックは 共にキリスト教です。聖書も同じです。

プロテスタントのことを日本では「新教」カトリックのことを「旧教」という人がいます。

プロテスタントは、十六世紀に、当時のカトリック教会の在り方に疑問をもった人々の、宗教改革運動によつて生まれてきた教会のことです。

現在では、聖書の解釈と教えに多少の相違はありますが 互いにその立場を認め、神さまのお恵みを人々に伝えるわざを一致して成そうとしています。その証として最近 プロテスタントとカトリックとが協力して「共同訳聖書」を出版し、共にそれを正典として用いています。

なお 「モルモン教」「エホバの証人」「統一教会」などは キリスト教から区別されています。

家の宗教が違いますか、どうしたら よいでしょうか

どの宗教の人も 自分の信仰を大切にいたします。キリスト教に生きる者も自分の信仰を大切にします。

しかし、それは、他の宗教や信仰を憎んだり 否定したりすることではありません。憎んだり、否定するところには 争いだけが生まれてくるでしょう。

他の宗教にあるよいところを理解しようとするのが 教会の信仰です。

信仰を持つということは 自分の生き方の基本態度にかかわることです。わたしたちは 互いに相手の生き方を認め 尊重しなくてはなりません。

家に、自分とは違う宗教に生きる方がおられる場合、それを尊重するのが当然です。先祖にたいする感謝の気持ちは大切にしなければなりませんし 家代々の墓についても大切にしなければなりません。

みんなが眞実を求めています

だれでも眞実を求めています。

争いよりもゆるしを。分裂よりも一致を。憎しみよりも愛を。奪うよりも与えることを。滅ぼすよりも助けることを。悲しむよりも喜びを。泣くよりも笑いを。失望よりも希望を。闇よりも光を。

私たちは、それらを受けるばかりでなく、与えることができるようになれば、どんなにすばらしいことでしょうか。

愛されるよりも愛する者に。なぐさめられるよりも慰める者に。悲しみのあるところに喜びを与える者に。争いのあるところに平和をもたらす者になりたいと思いません。

神さまは、神さまを信じ仰ぐ者を、必ず、そのような人につくり変えてくださるでしょう。そして、生きがいのある人生を、その人に与えてくださるでしょう。

もつと学び知りたい方は

どうぞ 遠慮なく教会にお出でください。

日曜日の礼拝に参加することが いちばんよいのですが、それが出来ない時は、教会が行うウィークデーの集いにおいでください。さらに、それができなければ、あなたの都合のよいときに、教会の牧師先生の所へお訪ねされるとよいと思います。

上に記したことは、初歩的ですが、とても大切なことです。もつと詳しく学びたい方は、ご自分で聖書をお読み下さい。理解出来るところからはじめて、必要に応じて、参考書も読まれると楽しくなります。これらのことについては教会におたずねください。

◎ 毎週日曜日 午前十時三十分より十一時四十分頃まで 礼拝を行っております。ご一緒したいと願っています。お出でください。



左京キリスト教会

左京キリスト教会

〒六〇六、〇八四五

京都市左京区下鴨南茶ノ木町二九

電話 〇七五、七八一、九六四〇